

令和6年ホヤ類調査結果速報 No. 4

令和6年9月26日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

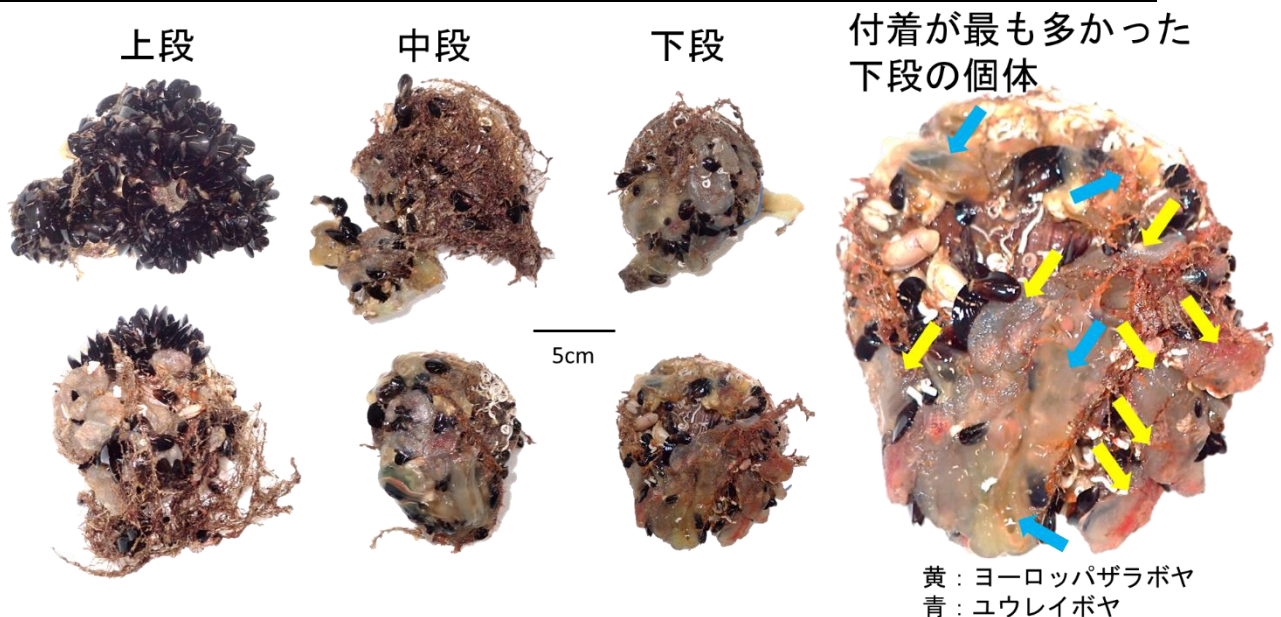
9月24日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

※「平年」とは「過去10ヶ年平均」を表します。

- ・耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は8月から横ばいでした（図1、図3上）。例年のように8～9月にかけての減少がみられませんでした。
- ・耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は12.7個体と平年を下回りましたが、昨年を大きく上回りました（図3上）。
- ・ヨーロッパザラボヤは25mm以上で成熟個体が増加します。25mm以上の個体の割合は約2割でした。
- ・耳吊り貝は高水温下での体力消耗から回復途中とみられ、貝洗い作業のストレスによって生残率低下の恐れがあります。一方で、ヨーロッパザラボヤの増重によって耳吊り貝の成長への悪影響が今後懸念されます。貝洗い等の対応は慎重にご判断ください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和6年9月24日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和6年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：9月24日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、付着物を調査しました。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり12.5個体（平年69.9個体）、平均付着重量は同14.4g（同26.9g）であり、付着個体数は平年を大きく下回っていますが、R5年を上回りました（表1、図1、3）。平均サイズは20.4mm（同16.6mm）で、成熟サイズの25mmを超えた個体の割合は約2割でした。例年、付着個体数は8月から9月にかけて大きく減少しますが、R6年はそのような減少がみられず（図3）、R5年と比較すると付着数が多い状況が続くとみられます。水温は15m層まで20℃以上ですが、平年と比べて最大1℃の差に収まっています（図4）。耳吊り貝のサイズは8月から9月にかけて差がなく、成長が停止していました（図なし）。高水温期は脱したもの、耳吊り貝は高水温下での体力消耗から回復途中とみられ、貝洗い作業のストレスによって生残率が低下する恐れがあります。一方で、ヨーロッパザラボヤは来月以降、急激に増重すると見込まれることから（図3下）、ホタテガイの成長に悪影響が出ます。難しい経営判断ですが、これらを考慮の上、慎重に貝洗い等の対応をご検討ください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和6年9月24日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	97.2g	58.2g	61.2g	72.2g
ヨーロッパザラボヤ	12.5g	13.5g	17.0g	14.4g
その他	84.7g	44.7g	44.2g	57.9g
ヨーロッパザラボヤ個体数	12.0個体	11.0個体	15.2個体	12.7個体
令和5年9月（R5.9.25）の個体数	2.4個体	7.6個体	1.8個体	3.9個体
令和4年9月（R4.9.21）の個体数	9.8個体	26.0個体	36.2個体	24.0個体
令和3年9月（R3.9.23）の個体数	2.8個体	12.2個体	33.0個体	16.0個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和6年6～9月）

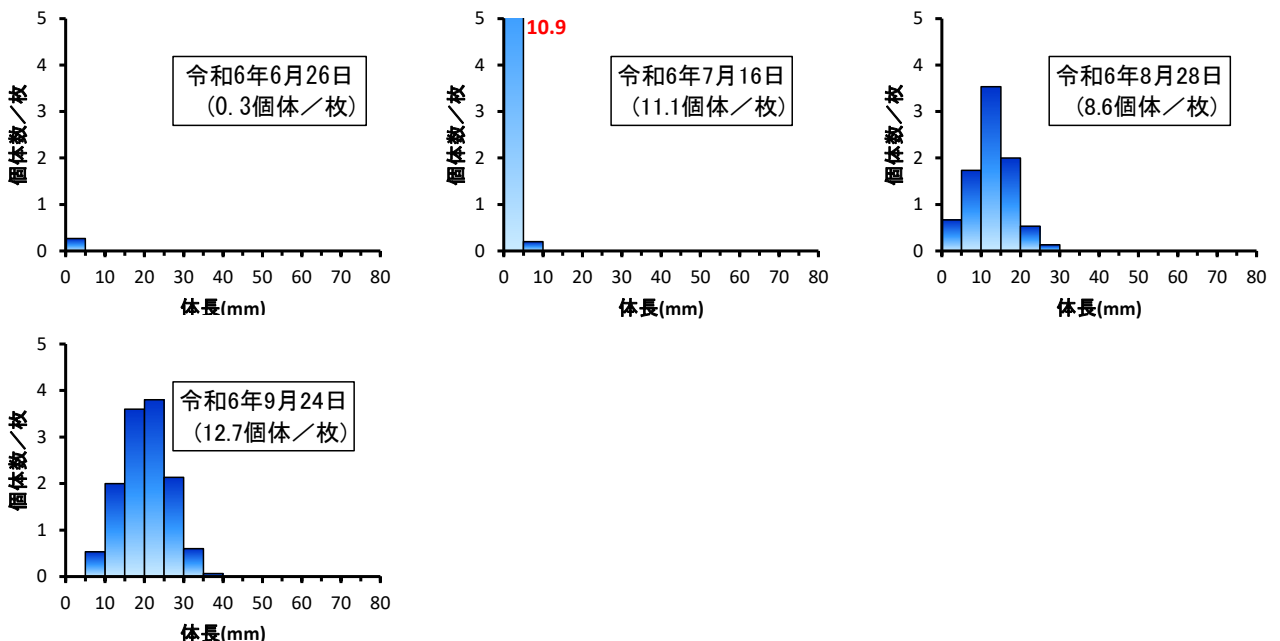
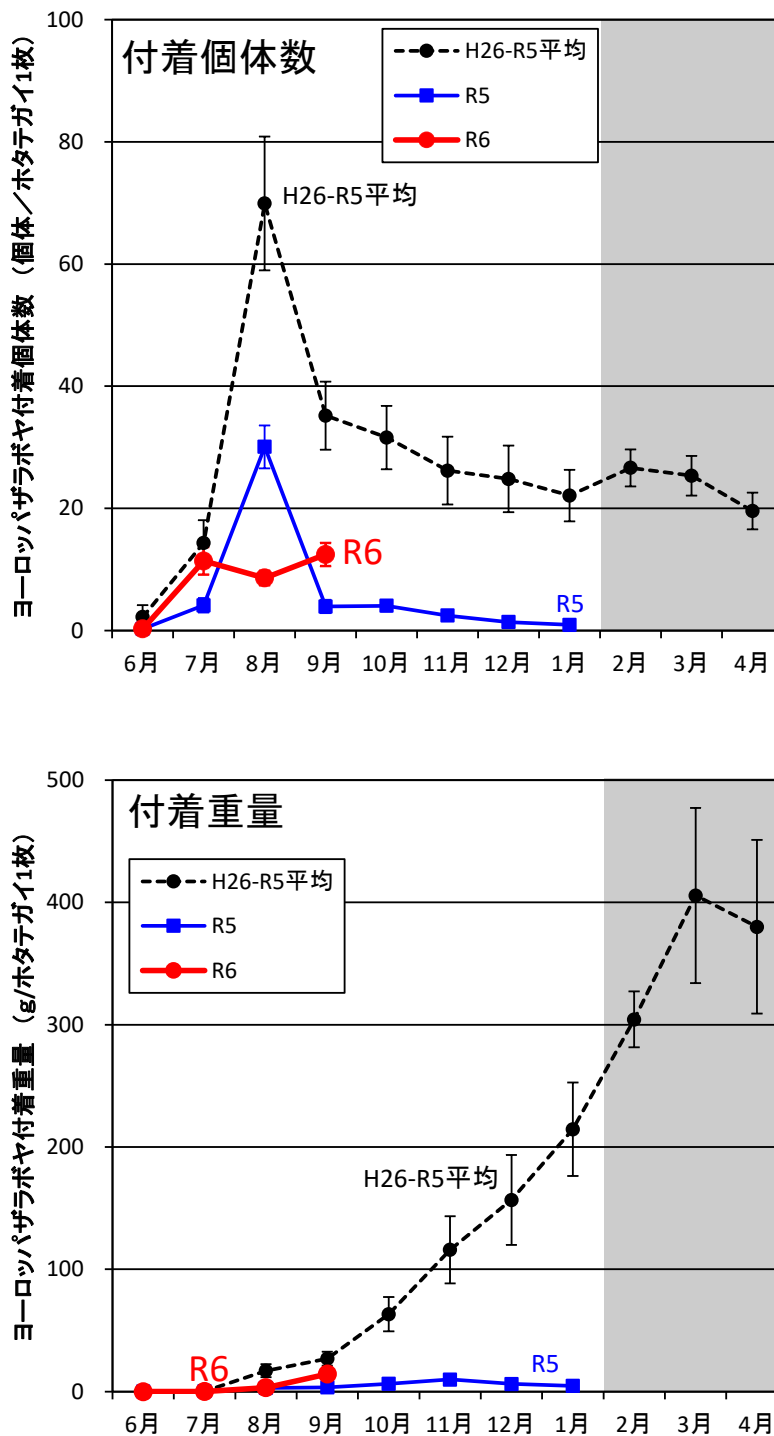


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

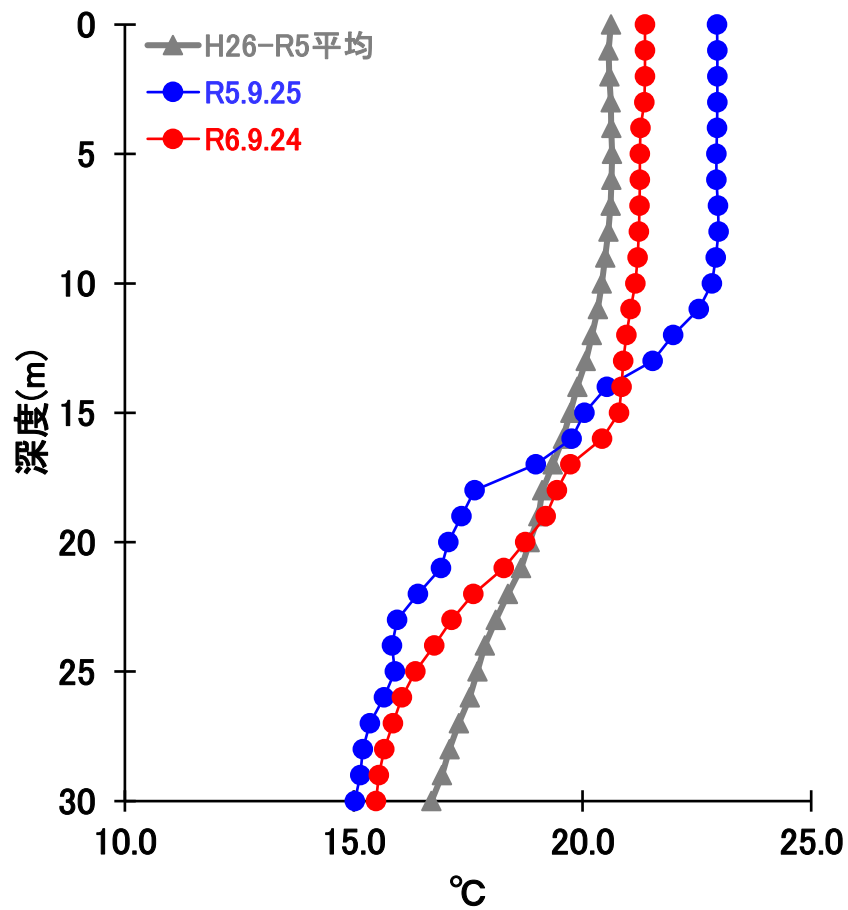
下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

※影をつけた2-4月はR2年以降調査未実施のため、H22-R1の平均を示す

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。

過去10ヶ年（H26～R5年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着個体数は7～8月に大きく増加し、8～9月に大きく減少した後、10月以降は緩やかに減少します。付着重量は10月以降、急激に増加します。

図4 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の9月の水温鉛直分布



9月の水温鉛直分布
 R6年（赤線）の耳吊り貝の垂下深度層（5～15m付近）の水温は20℃を上回っており、平年（灰色線）よりも最大で1℃程度高く、R5年（青線）よりも1～2℃低い状況です。